

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200396		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生会		
事業所名	グループホーム青海苑(東館)		
所在地	熊本県宇城市三角町郡浦739-5		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村報告日	令和4年 4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

不知火海を一望できる静かな岬に位置していますが、集落とは離れている為できるだけ地域に出掛けるよう心がけていますがコロナの影響で苑庭散歩と必要な受診に出られる程度の外出になっています。敬老会や誕生会では入居者のお好きなメニューを中心に手作りの料理を楽しんでもらっています。裏の畑には季節の野菜をつくり、入居者の方との収穫、散歩中には野菜の成長を楽しみに話に花が咲きます。収穫した野菜で食事に一品に添えたり季節を感じて頂けるよう取り組んでいます。入居者のペースに合わせ、入居者の発する言葉、声にならない思いをくみ取り、理解し、入居者の方の今を大切に寄り添ったケアができるようにと取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な場所に位置する事業所は法人の施設と併設されており、デイサービス利用者等との交流等も行われています。コロナ禍であるため、従来のような地域との関わりや行事での交流が難しい中、事業所で楽しめる事を工夫し、庭での食事やお茶会、畑作業等日々の生活に取り入れられている様子が聞かれました。入居者の日々の様子や笑顔はたくさんの写真に収められ、面会制限で共に時間を過ごすことのできない家族へ送られ喜ばれています。職員面談でも「今」を大切に「入居者のために何ができるか」の考えのもとでケアが行われている様子が聞かれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝スタッフと理念の唱和をし共有しながら実践に努めている。	毎日の唱和で共有しており、業務日誌の表紙にも記載することで職員も折に触れ目にしている。法人の地域密着事業所の理念の中に「普通の暮らし」の文言があり、認知症にとっての普通の暮らしとはどのような意味を持つか、認知症ケアについての研修の際に話合う機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為にユニット間での行き来も控えている状況でホーム内の活動に限定されているのが実情	例年、入居前の住まいそれぞれの地域行事にできるだけ参加する等支援を行ってきたが、コロナ禍により出向いての交流は難しかった。友人等から希望があれば県のリスクレベルに応じて面会を受入れている。運営推進会議が書面による報告の際はできるだけ地域役員の方へ持参している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で外部との接触を減らすような動きをしており、地域貢献といえる事ができているのか自信はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の認知症と疑われる方の対応について話し合ったり、事業所での活動を発信し、意見交換できた。	県の感染症リスクレベルに応じて、出来るだけ会議を開催したが、書面による報告も多かった。会議開催の際には入居者待機状況や勉強会の開催状況について等の質疑が行われた。例年、運営推進会議を利用し避難訓練の様子を見てもらう取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月実績報告を行っており、運営推進会議にも欠かさず出席いただいている。	運営推進会議への参加もあり、事業所の取り組みや日頃の生活の様子を伝えている。書面による報告の際は市の担当窓口へ直接出向き提出するとともに情報交換等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアは日常化していてホーム内は開放している。	事業所では身体拘束を行わないケアを基本としている。今年度の研修は資料を用い事業所内で行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相談会・勉強会で虐待が無いように徹底している。		

グループホーム青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前制度を利用されていた方もあり、職員への報告や制度についての説明は行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行なっている。その他不明な点については面会時等にお尋ねいただいたり、こちらからも家族や入居者に気軽に疑問をぶつけていただけるような関係を築けるよう日頃から取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等には家族に声掛けし、なるべく参加していただくよう声掛けをしている。来苑時にご家族同士、スタッフや家族との会話の中から意見を引き出せるよう努めている。	コロナ禍前までは行事への参加声掛けや面会時の声掛け等で家族とのコミュニケーションを図り意見を出しやすい環境作りを行ってきた。今年度はリスクレベルに応じて面会を受け入れており、来所の際に意見を伺っている。面会制限もあるため、毎月のお便りの充実や電話連絡等で家族との関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期の会議の中で職員の意見交換、勉強会を行なっている。	全職員を対象とした会議の中で意見交換を行っている。管理者もケアに携わっているため、職員はいつでも意見や提案を述べる機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務スケジュール作成前には全スタッフに希望をききできるだけ希望を受け入れたスケジュール作成を行なっている。勤務変更も支障が無い限り受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月資料回覧形式で認知症や身体拘束について学び、知識を深めてスタッフの資質向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会に参加し情報交換に努めている		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時に状況の把握を行い、入居後に関りを持ちプラン作成にも生かしている。1人1人の歴史を大切にしながら対応するように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談に伺ったりしてホームでの生活をイメージしやすいように努めている。面会時や入居直後の様子については電話報告を行ったりしてコミュニケーションを図るよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いに寄り添えるように、会話の中でどこに不安を感じておられるのかを察しながら、法人内のサービスも含めてニーズに合ったサービス選択・提供ができるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の出来るこの継続を生活の中でできるよう取り組んでいる。できる事は一緒に行いながら役割をもって日々を過ごせるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、面会は窓越しでの実施になっているが、聞き取りにくい際には仲介して意思疎通が図れるよう取り組んでいる。感染状況みながら対面面会も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前には地域へ出かける機会も多く作っていたが、現状感染対策として外出を控えている。窓越しの了解を得られれば、知人でも会っていただいている。	従来、地域行事への参加や家族との外出、法人事業所間での交流等、馴染みの関係継続の支援を行っているが、コロナ禍により来訪や外出による支援が難しかった。知人の来訪時には面会方法を工夫し受け入れた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやおやつ作りなど一緒にの時間を楽しめるように努めている。散歩や食事の時間など気の合う人や、その方のその日の状態に合わせてゲームの順番、席の配置等配慮するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後にも、地域で認知症の高齢者介護について相談を受けたり、必要な事業所への連絡等に取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々関わりを持ちながら本人の意向の把握に努めている。アセスメントや関りの中からの気づきを元に意向を反映した対応ができるよう取り組んでいる。	日々の寄り添いの中で入居者の思いや意向の把握に努めている。思いを表すことが難しい入居者については家族の意見も参考にし、入居者本位に検討している。	毎日の生活の中で入居者の思いを汲み取りケアに臨んでいる様子が聞かれました。家族等の面会受入れが難しい時期も続いているようです。このような時期だからこそ家族の思いも把握する工夫に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の書類だけではなく本人、家族とのコミュニケーションを図りながら対応の手掛かりになることを拭きだせるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わっていく中で表情や言動など反応を見ながら生活のリズムや日課などの継続ができるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意見も取り入れながら、担当者が中心となり希望を取り入れながらのプランニングに努めている。	入居者の担当職員が中心となり、他の職員や入居者・家族の意向も取入れている。毎月の評価に加え半年毎に総合評価を行っている。3ヶ月から半年ごとにモニタリングを行っている。入居者の状況は職員全体会議で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の言動や表情の変化など、ケアにあたる中で気づいたことを共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診等、ご家族にも協力していただきながら対応している。本人や家族とコミュニケーションを図り、状況に合わせた対応ができるよう努めている。		

グループホーム 青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに行ったり、保育園児、中学生などと交流の時間を作っていたが、コロナの影響で交流や地域と関わる時間を確保できないのが		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており定期の受診については家族で対応されている。受診時に必要な情報については事前に準備し提供している。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。協力医からは毎月往診がある。通院が必要な場合には家族支援を基本とする。情報が必要な際には医師へ状態を書面で報告する。医療連携で看護師の関わりもあり、状態変化時にもすぐ相談できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等あれば、看護師に報告連絡し状態に応じてかかりつけ医につながるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー作成しこちらの様子を情報提供している。入院中にも病院の連携室から電話にて聞き取りを行い退院後にもスムーズにホームでの生活を送れるよう準備しておく事や退院後の注意事項の確認に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に応じて家族と今後の対応や意向について確認する機会を設けている。ホームの方針や対応について説明し看取りに取り組めるようにしている。	重度化や終末期についての事業所の対応は入居時に説明し意向を確認している。協力医をかかりつけ医とする入居者は日頃の状況を理解しており、日々の変化は都度報告し、話し合いを重ね支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に連絡相談する旨伝えている。定期的に法人内での救急蘇生法の勉強会にも参加している職員も多く対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。	年2回避難訓練を行っており、例年1回は運営推進会議の開催に合わせ状況を地域住民や家族にも見て頂いている。今年度は避難経路確認も行った。毎月防災グッズをチェックし、備蓄品の賞味期限確認等も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使い、1人1人に合わせた対応を心がけている。	「安心と尊厳のある生活」は基本理念の一部としてパンフレットにも記載されており、ケアに繋がっている。特に言葉遣いには配慮しており、現状心配される事例は見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方にも声掛けしながら、表情、仕草などから本人の思いや希望を理解できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にしながら、入居者優先を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや気温に合わせて衣類調整を支援している。お肌のお手入れを日課とされている方にはセッティングや自力で難しい方にはスタッフが手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握して、苦手なメニューの際には個別で違うものを提供したりして対応している。誕生に日には本人に食べた地物を聞き、希望のメニューを提供するようにしている。	職員による献立で手作りの食事を提供している。敷地内の畑で職員と入居者で育てた季節の野菜を使い、入居者も野菜を刻んだり食事作りに参加する姿が見られる。訪問時は天気も良く、庭で焼きそばを作り楽しむ様子があった。	コロナ禍で事業所で過ごす時間も長くなったこともあり、畑での野菜栽培や保存食作りが生活の楽しみとなっている様子が聞かれました。出来る範囲での入居者の関わりも続いています。食を生活の一部とした支援の継続に期待しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の体調に合わせて栄養、水分補給できるよう努めている。摂取能力に応じた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケア実施し、口腔内の確認、出血の有無の確認を行っている。		

グループホーム 青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活用しながら排泄パターンの把握に努め。排泄パターンの把握に努め排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの座位が保てる入居者は出来るだけトイレでの排泄を支援している。オムツ利用の場合でも排泄パターンを把握することにより出来るだけトイレでの排泄を試み支援する。夜間のオムツ利用の際には睡眠を妨げないよう大きさ等も工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜をしっかり食事ととれるよう支援している。水分はお茶以外にも本人の好みの物を提供している。ほぼ毎日体操を実施、散歩が難しい時には室内歩行など適度に運動できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調見ながら入浴介助行っている。自己決定可能な方は希望に沿って実施している。拒否がある場合は時間を置いたり、日を改めたりして対応している。	週3回程度を基本として一日おきに声を掛けている。希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴時の着替えを準備する際は本人の好みも確認しながら自身で選択して頂く場面を持っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気のいい日には布団を干し、担当にて寝具の清潔を保つよう努めている。1人1人の習慣に合わせて疲労感や足の浮腫軽減の為休む時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の状態に合わせて支援できるよう努めている。看護師を中心に状態把握に努め、その方の状態に合わせて支援できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで楽しまれていたことは継続できるように支援している。家族。本人とコミュニケーションを図りながら役割をもって過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状では必要な受診等に限っての外出となっている。	例年、通院等の他ドライブや外食等へ出かける機会を持っているが、コロナ禍であるため、気軽な外出は控えている。敷地が広く散歩道が整備されており、海を眺めながらの散策、畑の野菜作り等、車椅子利用であっても日常的に外へ出る機会も多い。気候によっては外で食事を楽しむ等の工夫もある。	

グループホーム 青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出納長作りお小遣いを管理し、家族に報告している。買い物や外食等は現状控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には自宅に電話したり、家族からの電話を取り次いでいる。手紙を書かれる方にはポスト投函も散歩がてら行き、家族や知人との関係の継続に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに室内を飾り付けたり、季節の作品作りに取り組んでいる。	季節ごとの飾りは入居者と共に作った展示物を掲示しており、入居者の書初めも飾っている。感染症予防対策のため換気には特に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人に合わせてた居場所作りに努めている。リビングで気に入った場所でくつろげるよう過ごして頂いたり気の合う方と雑談できるよう環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や家族からのメッセージなどを張り、楽しめるようにしている。本人の状態に合わせて、ベッドや家具の配置をして必要な場合には本人と相談をしながら過ごしやすい環境作りに取り組んでいる。	ベッドが備えられた居室にはみんなで作った作品も飾っている。入居者の中には使いなれた用品や家族写真、趣味の作品等も見られ、生活の様子を感じることができる。車椅子利用も増えてきており、動きの妨げにならないよう配置に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札をかけ、トイレなども表示を大きくしてわかりやすく行ける工夫をしている。本人の日々の状態を考慮しつつできるだけ自立した生活を遅れるよう取り組んでいる。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム青海苑
作成日 令和 4年 4月 22日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	19	現在、面会等を制限しているためご家族と直接話せる機会が減っている	家族との信頼関係作り・ 情報発信	毎月発行のお便りはより細かく伝わるよう作成する。電話等で状況を報告し、安心していただく。窓越しの面会や電話など入居者との関係性が保てるよう環境や機会を作るよう努める	12か月
2	35	外出の機会が減り、グループホーム内で過ごす時間が増えている	入居者の皆さんと楽しく 過ごせる時間を作る	事業所内での活動を自然を活用したものを取り組めるように工夫する	6か月
3	49				
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。